

拝啓

皆様におかれましては、ますますお元気でご活躍のことと存じます。

宇都宮セントラルクリニックは、オリックスグループの経営サポートを受けることになりましたので、ご報告申し上げます。

本年7月1日より、オリックスから大久保輝行社長が医療機関支援のメディマージュの代表取締役役に就任され、当院の経営サポートに当たることになりました。

かねてより、カリスマ経営・ミッション経営・官僚経営の3つのフェーズのうち、当院は官僚経営のフェーズにあるため、経営スタイルの転換を今年（20周年）の目標として参りました。

今後は、オリックスグループのサポートを受けながら、上場企業の経営スタイルを取り入れ、宇都宮セントラルクリニックのサービス向上に努めてまいり所存です。

現在、準備しております“高度放射線治療棟”は、11月の完成を目指し、12月末からの治療開始を計画しております。

これまで、患者様の中に、癌が見つかって、放射線治療が必要な患者様は、重粒子線治療・陽子線治療・サイバーナイフ・トモセラピーなどは、千葉や茨城・群馬に通っていただくを得ませんでした。

治療回数も、重粒子治療では18回、陽子線治療では37回、サイバーナイフでは1-5回、トモセラピーでは38回と週5回のペースで通う必要があり、通院の多大な負荷がございました。

何とか、栃木県内で治療できればと言う、皆様のお声をいただき準備する決意をいたしました。昨年、米国の治療センターを視察し、米国ではサイバーナイフとトモセラピーをセットで導入し、治療成績をあげていることを知りました。

本来は、“1台ずつ導入しては?”との意見もあったのですが、サイバーは脳腫瘍や肺癌・肝臓癌・膵臓癌などの早期病変に、トモセラピーは転移を認める進行癌に使えると言うことで、2台を装備することで、すべての放射線治療患者さんをワンストップでできる施設を目指しました。自治医大の若月教授にも監修をお願いし開業準備をしております。

さらに、放射線治療を癌に対して実施すると、局所の抗原認知性が向上して、免疫反応が活性化されます。その免疫細胞が全身に循環し、放射線をかけていない腫瘍に対する攻撃を開始することをアブスコパル効果と言います。これを促進するのが、免疫細胞療法であり、オブジーボなどのチェックポイント阻害剤です。

栃木県唯一の画像診断センターとして、今後も、施設のさらなる充実とサービスの向上に、オリックスグループのサポートを受けながら、取り組んで参りますので、今後とも、よろしく願いいたします。

敬具

宇都宮セントラルクリニック 代表 佐藤俊彦